

Toshikazu Hori

堀としかず

「hori」の名でイラストレーターとしても活動中
愛媛出身
大阪在住

受賞歴

- 2009年 6月 愛媛県立河原学園デザイングランプリ奨励賞受賞
- 2009年 11月 香川ビエンナーレイラスト部門奨励賞受賞
- 2010年 3月 愛媛県立松山南高校砥部分校デザイン科卒業制作展優秀賞受賞
- 2012年 3月 京都嵯峨芸術大学卒業制作展卒業生特別賞受賞
- 2012年 8月 読書週間イラストコンペ入選
- 2013年 10月 あかマルシェ 2013 出展あしたの箱賞受賞
- 2013年 11月 アートストリーム 2013 出展大丸賞ハートス賞受賞
- 2014年 11月 アートストリーム 2014 アーツサポート関西賞受賞
- 2015年 ヤングクリエイターズアワード 2015MI ギャラリー賞受賞
- 2017年 ヤングクリエイターズアワード 2017MI ギャラリー賞
オーディエンス賞受賞

1991年生まれ

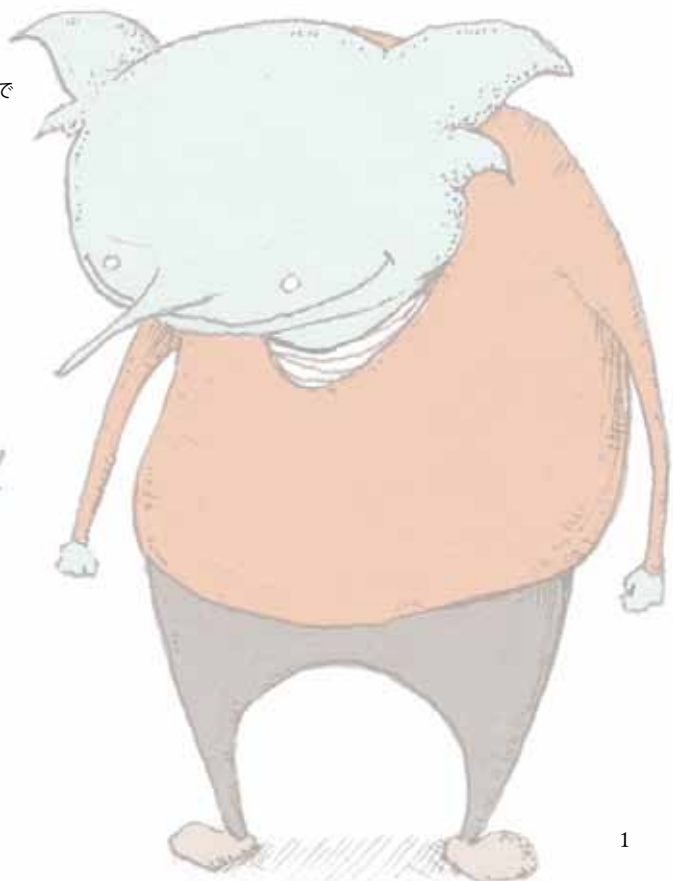
主に墨と和紙を使用し、和を感じさせるモチーフで自分の世界観を表現。作品の中に数多く描かれているキャラクターのような生き物は“あらゆるものには命が宿っている”という日本古来の思想から発想を得ている。妖精や付喪神とも言え、決して悪い生き物ではなく“純粋”であることを言っておきたい。それら生き物の暮らしぶりを想像しながら、幻想的な和の雰囲気を楽しんでいただきたい。

I was born in 1991.

Working mainly with Sumi(India ink) and Washi(Japanese paper), I try to express my view of the world and the sense of Japaneseness in different compositions. My paintings show a variety of original characters as fanciful creatures, which are inspired by the ancient Japanese thought that all things have lives. People may consider these characters as fairies or specters, but I would like to emphasize that they are not at all harmful but innocent. I hope that my viewers imagine how the characters live in their world, and also enjoy the fantastical and Japanese atmosphere around my work.

個展

- 2011年 1月 ART HOUSE 「細密心夢」
- 2012年 3月 ART HOUSE 「ミニユエマ」
- 2013年 1月 カワチ画材心齋橋店作品展示
- 2013年 3月 ギャラリー giogg 「ひつが展」
- 2013年 7月 ART HOUSE 「tsuno touta」
- 2013年 12月 ギャラリー SOZ 「omooko」
- 2014年 7月 ART HOUSE 「倭 wa 和」
- 2014年 10月 あしたの箱 「white」
- 2015年 5月 ART HOUSE 「おま森」
大丸心齋橋店美術画廊
「アートストリーム大丸賞作家3人展」
- 2016年 5月 ART HOUSE 「余白」
- 2017年 4月 21世紀美術館グループ展
「金魚美抄展」
- 2017年 8月 ART HOUSE 「Aka」
- 2017年 9月 日本橋三越 「火和」
- 2017年 11月 伊勢丹新宿店
下村優介×堀としかず二人展 「桃源郷」



表紙作家レビュー No.51 COVER ARTIST REVIEW



「めだかわ」
242mm × 333mm
2015年
和紙（三叉）、墨、水干絵具、アクリル



「招木猫」
530mm × 455mm
2016年
和紙（雁皮紙）、墨、水干絵具、アクリル



MOMO
F3(273mm × 220mm)
2017年
墨、雁皮紙、水干絵具、顔彩



「赤の偶像」
530mm × 455mm
2016年
和紙（雁皮紙）、墨、水干絵具、アクリル



ミミズク
455mm × 530mm
2015年
和紙、墨、アクリル、顔彩



神仏子
500mm × 197mm × 4mm
2017年
墨、雁皮紙、水干絵具

- アイアートでは、毎回、オークションカタログのカバーを新進気鋭の日本人アーティストの発表の場として公開していきたいと考えております。日本美術の礎を築きあげた先人の芸術と「いま」の時代との表現のコラボレーションを感じて頂きたいです。